



不動印 FC-SS 施工要領書

1. 材料の荷姿

	状 態	包装単位	包装荷姿
FC-SS	粉 体	25kg	紙 袋

2. 配合水

清水（飲用に適したものが望ましい）を使用して下さい。

【備考】

飲用水でない場合は、表－1の水道法第4条「水質基準」を満たすものを使用して下さい。

表－1 水質基準

項目	基準値
色度（度）	5 以下
濁度（度）	2 以下
pH	5.8～8.6
蒸発残留物（ppm）	500 以下
塩化物イオン（ppm）	200 以下
有機物等（ppm）	10 以下

【備考】

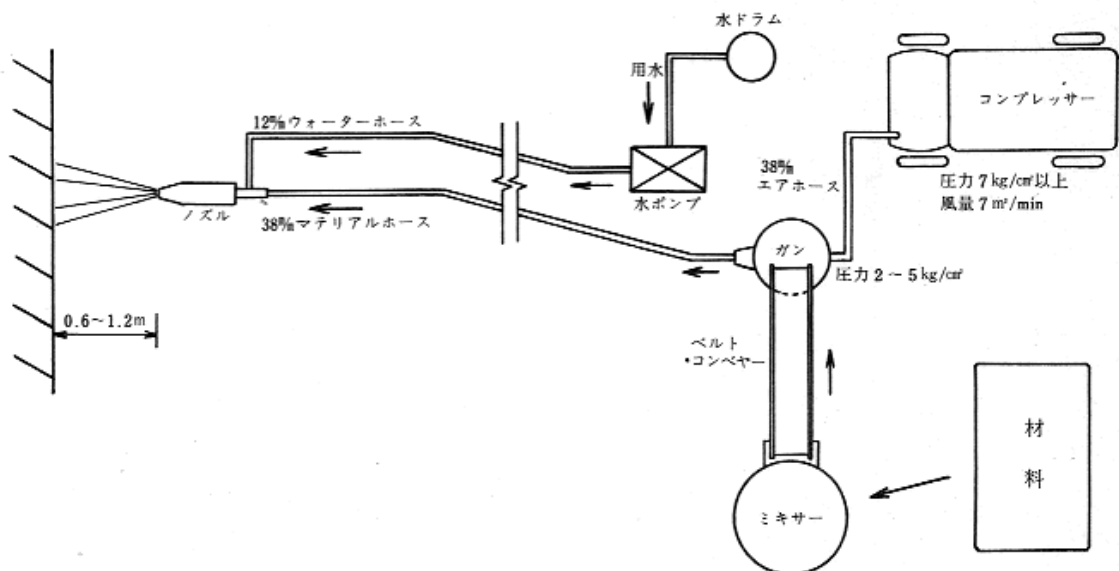
霧困気温度が5℃以下の場合は、20～40℃に加熱した配合水を使用して下さい。

3. 吹き付け作業要領

作業構成は

コンプレッサー（100馬力以上）
 高速ミキサー（プレミックス用）
 ベルトコンベアー
 吹き付け機（圧力計、回転計付）
 プランジャーポンプ
 エアホース
 マテリアルホース
 ウォーターホース
 積算水量計
 ノズル式

等よりなっています。



図－1 吹付機械装置

【備考】 霧囲気温度が0℃以下の場合は、施工を中止するか施工箇所の温度を5℃以上にして下さい。

(1) 下地処理

1日の作業範囲について、下地ラス面の清掃を行います。

(2) プレミックス

配合水の一部を粉体になるべく均一に加え、ミキサーで約2分間混練します。

プレミックス水量：3～6%
(粉体 25kg に対し、0.75～1.5 リットル)

【備考】

プレミックスの終わった材料は、30分以内に使用し、それ以上経過したものは使用しないで下さい。
特に雰囲気温度が30℃を超える場合は、20分以内に使用して下さい。
各バッチ毎に全量を排出し、古い混練物が混じり込まないように注意して下さい。

【注意】

粉塵を吸入した時、呼吸器への影響を生じる恐れがあり、また眼に入った場合、障害の原因となる恐れがあります。
施工時には必ず、防塵マスクとゴーグル型保護眼鏡を着用し、肌を露出しない作業服で作業を行って下さい。

【注意】

眼に入った時 : 直ちに清浄な水で15分間以上洗浄した後、眼科医の診断を受けて下さい。
皮膚に付いた時 : 多量の水、石鹼で洗い流して下さい。
異常がある場合は、医師の診断を受けて下さい。
飲み込んだ時 : 多量の水を飲ませ、吐かせて下さい。
吸引した時 : 清浄な空気の場所に移動し、鼻孔、口内等を清浄な水で洗浄します。異常がある場合は、医師の診断を受けて下さい。

(3) 添加水量

ノズルでの添加水量が少なすぎる場合は、粉末部が飛散し、作業環境の悪化やリバウンドロスの増加につながります。

一方、添加水量が過多になると強度低下につながりますので、添加水量は常に必要最小限となるようにして下さい。

① 添加水量の管理

添加水量の管理は以下の方法で行います。

- ・ 水ポンプ出口に取り付けた水道メーター
- ・ 水量タンク

添加水量の基準：11～15%
(プレミックス水量も含む)

計算方法 (水道メーターの場合)

$$\frac{\text{使用水量 (リットル)}}{\text{使用材料 (kg)}} \times 100 + \text{プレミックス (\%)}$$

② 施工体含水量の管理

施工体の含水量は、水分計で測定します。

含水量の基準：10～13%

【備考】

含水率の測定は、ガス圧式水分計を使用します。
ガス圧式水分計：CMゲレート (株) ケット科学研究所製)

【備考】

施工後 (ノズル水添加後) 20分以内に測定します。
(測定サンプルは、内部より採取します。)

(4) ガン圧

ガン圧は、常にノズルの噴射圧が一定になるように、ガン機本体に取り付けられた圧力計で調整します。

ガン圧はノズルマンの指示に従って調整します。

(5) ノズル操作

ノズルは施工面に対し垂直となるように保持し、円運動をさせながら所定の施工厚まで吹き付けます。

【備考】 ノズルと吹き付け面との間隔は、600～1200 mmに保持します。

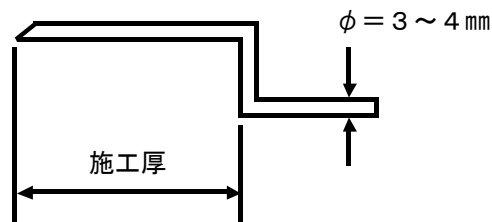
(6) 材料送り量

ガン機本体の回転計を調整して、一定の送り量になるようにします。
材料の送り量は、40kg/分（2.4ト/時間）以下にします。

【備考】 材料の送り量が多すぎると、配合水の添加量不足の原因となります。

(7) 施工厚の管理

計測ピンにより、施工厚をチェックしながら施工します。



図－2 計測ピン

施工厚のチェックは、1ヶ所/1 m³程度を目安に行います。

(8) 表面仕上げ

原則として、吹き付け施工表面のコテ仕上げは行いません。
凹凸が著しい場合は、コテなどで仕上げを行います。

(9) 打ち継ぎ

1日の作業終了後は、必ず吹き付け面に対して垂直に切り取り、打ち継ぎ部とします。

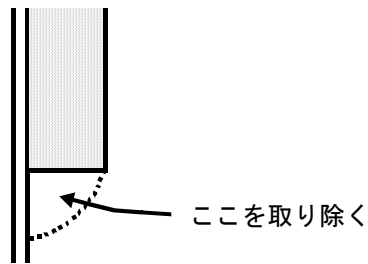


図-3 打ち継ぎ部

【備考】 打ち継ぎ部では、施工厚のチェックも行います。

昼休み等で、1時間以上作業を中断する場合もは、施工前に打ち継ぎ部を湿らせます（切り取りは不要）。

【備考】 約2時間毎にノズル内のウォーターリングに詰まりがないかを確認して下さい。

4. 養生

翌日の施工前に、前日の施工部分に散水養生（清水使用）をおこなって下さい。

施工後は24時間以上の養生をおこなって下さい。

硬化が充分であることを確認するまでは、過度の振動や衝撃を与えないで下さい。

【注意】 硬化が不十分な場合、施工体が崩れたり落下する恐れがあります。充分硬化することを確認するまでは、施工体の下を関係者以外立入り禁止として下さい。

5. 加熱乾燥

通常の発電用ボイラ排ガス（200℃以下）の場合はボイラ立ち上げ運転開始と同時に通煙します（乾燥焚き運転は不要）。

6. 材料の保管

湿気の少ない乾燥した場所に保管して下さい。

内部に固まりのあるものは、使用しないで下さい。

紙袋が破損しないように注意して取り扱って下さい。

いったん開封した製品は、早く使用して下さい。

7. 廃棄

【注意】 廃棄する際は、使用前、使用后ともに、許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託して下さい。

東興ジオテック株式会社

広島工場 〒739-0146 東広島市八本松飯田9丁目10-1 TEL 082(428)0003